

上川管内農業法人ネットワーク通信 「あぐり Corp.」

発行責任者: 上川管内農業法人ネットワーク会長 中原 浩一
発行元: 上川農業改良普及センター



2016
初冬号

通巻18号(2016年11月)

上川管内農業法人ネットワーク

「現地研修会」が開催されました



11月7日にネットワークの現地研修会が富良野地域で開催され、法人ネットワーク会員のほか、道内の農業法人の役員や関係機関職員など、合わせて30名が参加しました。

今回の研修会では、「寺坂農園(株)」（中富良野町）と「(有)フラワランドかみふらの」（上富良野町）の2カ所を視察し、それぞれの法人代表者から先進的な取り組みを学びました。

【現地視察】

「メロンのネット通販と販売管理システム開発の取り組み」
（寺坂農園(株) 代表取締役 寺坂祐一氏）

メロンの生産販売を中心に営農する同社では、都市からの遠隔地というメロン直売には不向きな立地を「農業+通信販売」というビジネスモデルで克服し、今では道内の農業通販ではトップクラスの売上規模となりました。

また、受注・出荷・入金管理を一元化する販売管理システムを自社で開発、このシステムはこの春に大手情報機器メーカーで改良・商品化された旨の説明がありました。

「大規模観光農場による農産物の生産加工販売」

（(有)フラワラランドかみふらの 代表取締役 伊藤仁敏氏）

花き生産販売と観光農場を主に経営し、地域の観光施設として知られる同社は、14年頃より本格的な野菜の生産販売を始めました。自社生産の馬鈴しょやスイートコーンを近隣農家から仕入れた野菜と合わせて観光施設や産地直送で販売、いまでは農産物が観光売上を越えるまでに成長しました。農場説明では自社農産物のレトルト商品化や馬鈴しょの「熟成貯蔵」など、生産物の価値向上に向けた情報提供がありました。



自社産品のレトルトで付加価値化



左から、寺坂代表、伊藤代表

会員紹介 士別市「有限会社 テイリーサポート士別」

「酪農を利益的で、ゆとりある経営にしたい」という酪農家が集まり、平成13年に全雇用型の組織運営によるTMRセンターとして有限会社「テイリーサポート士別」を設立しました。飼料作物の管理・収穫は正職員と臨時雇用で、TMR製造は正職員で行い、配送は地元運送会社に委託する体制により、構成員の出役がなくなり、各戸が乳牛の飼養管理に専念できるようになりました。

平成19年には育成牛の哺育育成センターを設立し、現在96頭を受託しています。子牛の成長段階に応じた適切な管理により育成状態が向上、初産分娩月齢の短縮に繋がり収益性が改善しました。

また、新たな担い手の確保にむけて、就農を希望する社内研修生が搾乳や経営経験を積むための実践研修農場を平成25年に開設、酪農経営の第三者への委譲の仕組みを作り運営しています。

酪農家戸数・生産乳量の減少を食い止めるため、法人設立当初の目的である「利益的でゆとりある経営」を実現させたものの、構成員中7〜8戸は後継者がいないとい



実践研修中のご夫婦

代表取締役 北口 久 氏
 法人設立 平成13年11月 資本金 5,000万円
 事業内容 飼料作物／農作業受託、TMR供給、哺育・育成牛受託

う大きな課題が残ります。来たるべき人口減少社会を見据え、人材育成に力を注ぐ。地域の存続をかけた取り組みはまだまだ終わらないと考えています。

行事のご案内

スマートアグリ・シンポジウム 2016 in 旭川

日本農業情報システム協会主催によるシンポジウムが旭川で開催されます。今、地域の農業者から大きな期待を集めているのが、ICT技術を活用して、農業経営の効率化・省力化・高品質化を実現する「スマート農業」です。本行事は道内外の先進技術に関する研修を通じて、先端技術と農業の距離を縮め、地域農業の活性化に資するシンポジウムとなります。

日時 平成29年1月20日13時30分〜17時30分
 場所 中小企業大学校 旭川校

（旭川市緑が丘東3条2丁目2）
 内容 ①セミナー「6次産業化の新たな安全法」

②経営セミナー ③農業ICT事例紹介
 （ハウス内環境センサー、水田水門センサー、ドローンの活用、栽培管理システムなど）

問合せ先(株)富貴堂ユーザックまで
 (電話0166-68-2626)



編集後記

平年より半月早い積雪に驚いた10月下旬、その後も寒気が続き、今年の現地研修は一面の雪景色となりました。これから師走に向けてより忙しい時期を迎えられることと存じます。どうぞ、ご自愛ください。
 (K・T)



